

# 外部評価委員会における意見に対する 次期経営計画への反映状況について(1)

区分	委員意見
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 3次医療（高度・専門・特殊・広域）という県立病院としてのあり方の基軸となる表現がない。また、水平連携、垂直連携のほかにも、グループ化をしていく考え方もある。（谷田）</li> <li>➤ 自治体病院の役割は、全体の最適化につながる個の最適化。全体とは広島病院の場合は“県全体”，安芸津病院の場合は“安芸津地区全体”。（塩谷）</li> <li>➤ 価格ありきの経営は、県立病院としていかなものかと思う。価格を落としても品質を落とさないことが重要。（木原）</li> </ul>
広島病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 医師同伴の医療機関訪問は、高い紹介率の維持に大いに貢献している大変素晴らしい取組。今後は、紹介患者の診察・検査予約を、開業医がストレスなくできるような受入体制が重要。（和田）</li> <li>➤ 高度急性期に位置付けることはニーズに合うが、周囲とのリレーションシップがその成否を分ける。黒字・高機能だから良いのではなく、他の医療機関とのコラボ、アクセスをどのように良くしているか、患者からの支持があるかが大切。（木原）</li> <li>➤ 例えば“がん”の中でも得意分野を決めるなど、特色を出していく必要があるが、強みのアピール度が足りない。外部発信をより強化し、ブランドイメージを構築する必要がある。“がん”について、他の急性期病院とのある程度の色分けができればよい。（和田）</li> <li>➤ 患者アンケート結果の総合評価が高くても、惑わされてはいけない。診察を受けた時間に6割程度しか満足されておらず、むしろ満足度が低い項目を改善する取組が大事。（和田）</li> </ul>

反映状況 ( )は、計画本文中のページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県全体における医療提供体制の確保に引き続き貢献する(P2)こととし、特に広域性が求められる救急医療・周産期医療・災害医療について、“3次”と表現(P4)。</li> <li>■ 地域関係者との連携が実際に機能するよう、地域包括ケアの仕組みの構築に積極的に貢献することを目指す姿に掲げ、(P3)取組を進める(P30)。</li> <li>■ 広島都市圏における基幹病院等の連携や地域医療連携推進法人制度などを含め、内外の環境変化に的確に対応していく(P43)。</li> <li>■ 医薬品や診療材料等の採用に当たっては、品質を担保した上で、収益性や使用効率を踏まえることとし、また、委託内容や契約方法の見直しについても、業務の見直しを行った上で進めることとする。(P32)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入退院支援の機能を充実し、紹介患者の受入体制を強化(P30)する中で、その手法について今後検討する。</li> <li>■ 地域との垂直連携・水平連携を重視し、丁寧な逆紹介を推進するとともに、逆紹介後のフォローに責任を持って対応することを明記(P25,30)。</li> <li>■ 紹介率、逆紹介率について、高い水準の目標指標を設定(P30)。</li> <li>■ 新たに設置する呼吸器センターにおける肺の悪性腫瘍、消化器センターにおける消化管・肝胆膵の悪性腫瘍など、強みや特色のブランド化を目指した積極的なPRに取り組む(P24,25)。</li> <li>■ 特に評価の低かった「外来待ち時間」の満足度についても目標指標に掲げており(P31)、満足度の向上に繋がる取組を進める。</li> </ul>

# 外部評価委員会における意見に対する 次期経営計画への反映状況について(2)

区分	委員意見
広島病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救急受入数とは別に、救急応需率を高めてはどうか。(和田)</li> <li>➤ 性暴力被害者の支援など、収益性はなくても、公的機関がすべきものを積極的に引き受けることで、県立広島病院の存在感が大きくなるのではないかと。(平井)</li> </ul>
安芸津病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 訪問診療，訪問看護，訪問リハの件数が前年度と比べて減少している。これからの安芸津病院の生命線であり，しっかり取り組んで欲しい。(塩谷)</li> <li>➤ 在宅医療において重要なことは，いかにケアマネとのしっかりとしたつながりを持ち，在宅医療のニーズを把握する仕組みをつくること。(塩谷)</li> <li>➤ 安芸津病院が取り組むべきは，地域包括ケア。地区医師会やケアマネ，市町との協調が重要。(檜谷)</li> <li>➤ 24時間の訪問診療を安芸津病院が行うことは現実的に無理。地区医師会との協力関係の中で，必要に応じて患者を連れて来てもらうという形で，安芸津地区の診療所をバックアップサポートできればよい。(檜谷)</li> <li>➤ 安芸津病院には，中長期的に取り組んで，チームとして地域を支える在宅医療の核になり，広島の過疎地域を引っ張るような拠点になることを期待する。(平井)</li> </ul>

反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 救急応需率の高い，断らない救急医療の実現を目指す(P24)ことを明記した。なお，28年度下期の取組により，応需率は上昇している。</li> <li>✓ 72.4% (27年度下期) ⇒ 83.7% (28年度10～1月) [+11.3%ポイント]</li> <li>■ 県が設置する「性被害ワンストップセンターひろしま」と連携し，性被害者への医療に関する支援に貢献していく(P32)。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 訪問看護の充実に向けて，目標を高く設定(P29)。</li> <li>■ ケアマネージャーを含めた地域関係者全体で，地域の実情や課題の検討し(P26)，患者に最適なサービスを一体的に提供する(P30)。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行政や診療所，介護事業者等の地域関係者全体で，地域包括ケアの完成イメージの作成・共有を図る(P26)とともに，在宅移行した患者の急変時の積極的受入(P30)など，地域唯一の入院機能を最大限発揮する。</li> </ul>